

## 3 顧客のために

# 医療機関の経営効率向上をサポートする「顧客支援システム」を提案しています

音声入力で電子薬歴を作成できる「ENIFvoice SP+A」と「ENIFvoice Core」、医療材料を分割販売する「ENIFme」、看護師の業務を効率化する「エニフナース」、医薬品を簡単に注文できる情報端末「ENIF」などをご紹介します。

## 「ENIFvoice SP+A」と「ENIFvoice Core」で薬剤師の業務をサポートします

### 音声入力によって薬歴と服薬指導の質の向上に寄与しています

薬剤師には、薬の調剤のほかに、服薬指導と薬歴の作成という大切な業務があります。薬歴とは、患者さまの体調の経過や服薬指導の内容、服薬による副作用の有無などを記録したもので、この記録が次の適切な服薬指導につながります。薬歴の作成に時間がかかると、服薬指導に費やせる時間が短くなり、そのぶん薬歴に記載する情報も少なくなります。

わたしたちはこの悪循環を防ぐために、服薬指導をしながら薬歴の作成を進められるようなシステムの開発を模索してきました。そして2009年6月に音声認識による薬歴作成支援システム「ENIFvoice (エニフボイス)」をリリースしました。マイクに向かって話す音声が入力されるので、すばやく正確に薬歴を記録することができます。

翌年5月には後継機種「ENIFvoice SP (エスピー)」を発売しました。ジェネリック医薬品の利用推進やセルフメディケーションの推奨という流れを受けて、音声でジェネリック医薬品やOTC医薬品を検索できる機能を追加しました。

### クラウド型の「ENIFvoice SP+A」を展開しています

2017年には電子薬歴を一体化した「ENIFvoice SP+A (プラスエー)」をリリースしました。今後増えるであろう薬剤師の訪問業務に対応するためにも、薬歴や音声認識辞書のデータをクラウド化しています。いつもと違うパソコンや他の店舗で作業するときも、レベルアップした状態の音声認識を使用できます。クラウド化によって、各薬剤師や各店舗だけでなく、チェーン店全体を支援できるようになりました。

「ENIFvoice SP+A」を導入したチェーン店のデータによると、1秒間に音声入力した文字数は平均で6.5文字に達します。これはキーボード入力の3倍です。記載される情報の量が増えて、より具体的かつ詳細に書かれるようになりました。

「ENIFvoice」シリーズは、2017年11月末時点で全国の調剤薬局に8,294台導入されているほか、51の薬学系大学に教材として導入されています。

### レセコンと一体化した「ENIFvoice Core」を開発しました

同じ2017年には「ENIFvoice SP+A」の基本機能を踏襲したレセプトコンピュータ「ENIFvoice Core (コア)」を開発し、8月からグループ会社の調剤薬局で稼働しています。電子薬歴とレセコンを音声認識で操作できるので、効率よく作業することができます。さらにクラウド型なので、同じ法人のチェーン店であればどの店舗でも瞬時に薬歴情報を閲覧することができます。患者さまは、出張先や旅行先でも、かかりつけの調剤薬局のときと同じように質の高い服薬指導を受けられます。いまのところ個人情報の管理の問題もあり、ほかの法人や医療機関との間での薬歴情報の共有は認められていませんが、患者さまの利便性を考えると、徐々に共有が認められていくことが予想されます。情報共有のインフラとして医療業界全体を支援していく所存です。「ENIFvoice Core」は2018年の本格リリースをめざしています。

### 「ENIFvoice Core」が普及したときのメリット



同一チェーン店で「ENIFvoice Core」を導入していれば、全国どの店舗でもすぐに患者さまの情報を閲覧でき、的確な服薬指導ができます。

## 音声入力の「エニフナース」によって訪問看護師の業務をサポートします

訪問看護師のみなさまが報告書や記録書を作成する負担を少しでも軽減できればとの思いから、モバイル端末で音声入力を使って簡単に訪問看護記録を作成できる「エニフナース」を開発し、2016年4月にリリースしました。

「エニフナース」の「訪問看護記録」というアプリを使うと、いつでも、どこでも、音声入力ですぐに訪問看護記録を作成できます。訪問看護ステーションに戻ってから手書きのメモを見ながらパソコンで入力するのに比べると、大幅な時間の短縮になり、記録の量と質も向上します。「看護の問題点を的確に把握できるようになり、記録の質も向上した」という評価をいただいています。また、薬剤検索などの機能があり、端末1台で日々の負担を大きく軽減できることも大きな特徴です。

## 「ENIFme」を通じて、 多職種間の連携を手助けしています

### 「ENIFme」によって医療材料を1個口から購入できます

地域医療の充実が求められるなかで、調剤薬局と薬剤師は「かかりつけ薬剤師・薬局」および「健康サポート薬局」になることが期待されています。わたしたちは、これらをめざす調剤薬局をサポートするために、医療材料(点滴用チューブや創傷被覆材、注射器など)を一包装単位に分割して販売する「ENIFme(エニフミー)」(2012年リリース)を展開しています。

「かかりつけ薬剤師・薬局」の要件のひとつに、「患者さまのご自宅に出向いて医薬品や医療材料を提供すること」がありますが、これまで医療材料は大きな包装で流通されることが一般的で、医療機関では保管場所のスペースの問題もあり、多種類の医療材料を常時揃えておくことは困難でした。「ENIFme」に登録すれば、「ENIF」で医療材料のバーコードを読み取るだけで、医療材料を1個口からでも簡単に購入できます。「ENIFme」を導入している施設は2017年11月末時点で1万2,285軒です。

### 在宅医療の機器と材料を解説する本を発刊しました

「ENIFme」を推進している地域医療連携室では、各地のMSを通して医療機関や訪問看護ステーションに向けて医療材料に関する情報の提供も行っています。

2017年1月には、在宅医療で著名な泰川恵吾先生を著者に迎えて『ドクターゴンの知っておきたい在宅医療の機器・材料』を発刊しました。重要度の高い機器・材料を10テーマ採りあげ、その役割や使い方、注意点、仕様などを写真入りで解説しています。読者の薬剤師からは「看護師と医師の会話が理解できるようになった」「患者さまやそのご家族から質問されたときに答えられる知識が得られた」という評価をいただいています。これまでに4刷9,000部を発行し、大学の薬学部や看護学校の教材としても活用されています。



『ドクターゴンの知っておきたい在宅医療の機器・材料』

### 在宅医療に携わる多職種のみなさまをつないでいます

在宅医の協力のもとに医療材料についての研修会も全国で実施し、累計で200回に達しています。薬剤師だけでなく、医師や訪問看護師、ケアマネージャーが参加するようになり、在宅医療に携わる多職種の方たちの交流の場にもなっています。

「ENIFme」は、開発当初から単なる医療材料分割販売システムではなく、多職種連携のプラットフォームをめざしていました。「エニフナース」の開発を受けて、MSは訪問看護ステーションへも積極的に訪問しています。MSが各医療拠点の特徴をほかの拠点に伝えれば、拠点同士が連携しやすくなります。これからも多職種の方々をつなげてまいります。

## 「健康サポート薬局」をめざす 薬剤師のために研修を実施しています

調剤薬局で働く薬剤師や管理栄養士の知識向上とスキルアップをサポートするため、わたしたちは2015年2月に一般社団法人薬局共創未来人財育成機構を設立しました。

地域に密着した「健康サポート薬局」になる要件のひとつに「所定の研修を修了した薬剤師が常駐する」があります。2017年1月、当機構は全国で5番目に、日本薬学会から「健康サポート薬局」の研修実施機関(プロバイダー)に認定されました。「技能習得型研修(集合研修)」を8時間、「知識習得型研修(eラーニング)」を22時間修了すると研修修了証が発行されます。集合研修では、あらかじめ受講者に地元での地域医療の現状を調べてもらう「事前課題」を課し、8時間のうち6時間をワーキング(ディスカッション)にあてています。実践的な内容にしているのは、修了証そのものよりも、実際の業務での質の向上をめざしていただきたいからです。受講者からは「いま求められている薬剤師の役割がわかった。他のスタッフにも伝えてこれからの地域医療に活かしたい」などの評価をいただいています。集合研修は2017年11月末までに全国各地で約30回行い、これまでに447人に修了証を発行しています。

## 情報端末「ENIF」によって、日々の 医薬品発注業務を効率化しています

「ENIF(エニフ)」は、東邦薬品(株)とグループ会社が調剤薬局や病院、クリニックに提供している情報端末です。医薬品や医療材料、事務用品、医学書、一般雑誌(定期購読誌のみ)をバーコードを読み取るだけで発注できて、業務時間の短縮のほか、発注もれや発注間違いを解消できます。2017年11月末の時点で3万3,000台が導入されています。「ENIF」を利用している調剤薬局向けに、「ENIFclub(エニフクラブ)」という有料の会員サービスも提供しています。